

- ◎意見と事実との関係を考えながら、読む（書く、話す）力
- ◎複数の資料から目的に応じた情報を取り出し、関係付けて考える力
- ◎条件や場に応じて書いたり話したりする力



こんな指導をしてみてください

意見と事実との関係を考えながら読む・書く・話す

国語「説明文」の授業で

中学年以上の説明文の授業では、【意見】（＝筆者の考え）、【事実】（＝原因・実験結果・具体例）などを区別し、その関係を考えながら読む指導をすることが大切です。

説明文の学習で学んだことを、作文等を書く場面や、説明したり発表を聞いたりする場面でも意識し、生かせるようにしていきましょう。



すべての授業で

話したり書いたりする際に、意見と事実を意識させましょう。

（例1）自分の考えを発表させるときに

発表する時は、まず、結論を言ってから、なぜそう思ったか言ってください。



わたしは、①の考え方がいいです。そのわけは2つあります。1つめは～です。2つめは～です。



〔先に自分の考えを、その後でそう考えた理由（事実）を述べる。〕

（例2）実験の結果をもとに、意見をいわせるときに

実験の結果から、「……」ということがわかりました。だから、わたしは、～だと思います。



〔先に実験結果（事実）を、その後で結果から考えたこと（意見）を述べる。〕

複数の資料から情報を取り出し、関係付けて考える

社会の授業で

複数の資料を使って考える活動を日ごろから行っているのが社会の授業です。資料を読み取り、情報に関係付けて考察することが求められています。

このときに忘れていけないのが「目的」です。「目的」に応じて、条件や様式にあった書き方で自分の考えを書かせてみましょう。

（例）「水産業」遠洋漁業の問題点を考えさせるときに

目的

遠洋漁業の問題点について考えます。教科書〇ページの遠洋漁業をしている漁師の『青木さんの話』と『△△のグラフ』から、それぞれ一つずつ問題点を見つけてください。見つけたことの両方を使って、遠洋漁業の問題点について、ノートに書いてみましょう。

資料



条件や場に応じて書いたり話したりする

自分の考えをもたせるときや、ふりかえりのときに書く活動を取り入れていきましょう。

また、いろいろな教科や活動（例1）自分の考えを書かせるときに

（例2）ふり返りで

の中に書く活動を取り入れることを通して、進んで自分の考えを伝えようとする子どもを育てていきましょう。

結果と考察を次の言葉を使って書きましょう。

A、Bの2つの結果から、といえる。



「辺の長さ」「内角」というキーワードを使って、今日の学習で分かったことを書きましょう。

